

コロナ ～試練の時、恵みの時～

2019年暮れから中国で始まった不思議な肺炎。翌年1月の終わりから2月の初めにかけて、北海道でその肺炎が発生しました。本学のカトリックセンターは、2020年2月22日に公開講演会を予定していました。次第に感染が広がっていく状況の中で、この講演会を実施できるかどうか懸念されましたが、多くの来場者を迎えて無事終了。

ところが、その講演会の日から札幌市内の感染者が増えていきました。コロナウイルスという耳慣れないウイルスによる感染症であることが判明。しかし、その治療法もわからず、重症化する患者たちが増え、2月末には道内だけで感染者が60人を超えていました。今から思えば小さな数字ですが、私たち人間は、正体のわからないものに対しては、恐怖心を抱くものです。このコロナウイルスに関してもそうでした。

遂に北海道の感染者数が全国に先駆けて増加していることを案じた知事は、2020年2月28日に道民に向けて新型コロナウイルス緊急事態宣言を発しました。それから政府も動き、次々と日本国中で、学校の休校、外出自粛、飲食店営業自粛、等々、対策が十分にわからない中での対応を急ぎました。

本学もこの要請に応じてすぐに検討を行い、休講、入構禁止、更に卒業式も中止、など、矢継ぎ早にこれまでに経験したことのない対応を決断しました。教育現場にとって、大変苦しい決断だったと思います。

入学式も中止。当面登校が禁止の状態であれば、オンライン授業を行うしかない。そのための準備がすぐに進められ、ハードやソフトの導入とその利活用習熟のため



度重なる学内研修会実施。学生側への対応も遅滞なく進められ、オンラインによる学生たちの学びに支障が生じないように、細やかな配慮が払われました。

コロナパンデミックによる昨年からの状況は、確かに人類全体にとって大きな「試練の時」でした。世界中を襲った悲劇といえるでしょう。しかし、このコロナパンデミックは同時に、「恵みの時」にもなり得ると考えます。人類に新たな「気づき」も与えてくれました。

- * 経済最優先の価値観で人類が地球の調和を破壊したこと
 - * エッセンシャルワーカーの貢献
 - * 家族のつながりの再認識
 - * 世界の人々の連帯と協力
 - * 現代のテクノロジー利用による新たな学習法や働き方の改革
 - * 新たな人間らしい生き方の模索と選択・決断への歩み、等々
- よい気づきも与えたコロナです。



「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。
人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」
(ヨハネ福音書15章5節)

イエスの慈しみのみ心像

講堂入り口の所に立っているイエス・キリストの像は、ハートが見え、イエスがそのハートを指し示しています。このご像は、「イエスの慈しみのみ心」のご像と呼ばれています。「私のもとに来なさい」というイエスの呼びかけです。重荷を負って疲れている人、悲しむ人、孤独や人からの無視に苦しむ人。どなたでもどうぞ、来てください、と招くイエス様です。

聖書のことば

「すべて重荷を負って苦勞している者は、私のもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう。私は柔和で心のへりくだったものだから、私のくびきを負い、私に学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に安らぎが得られる。私のくびきは負いやすく、私の荷は軽いからである。」(マタイ 11章 28-30節)

マザー・テレサの名言

1. あなたは、あなたであればよい。
2. この世界は食べ物に対する飢餓よりも、愛や感謝に対する飢餓の方が大きいのです。
3. 平和は微笑みから始まります。
4. 人間のほほえみ、人間の触れ合いを忘れた人がいます。これはとても大きな貧困です。

教皇フランシスコのTwitterより



Pope Francis_@Pontifex

Only a heart that is not taken over by hastiness is capable of being moved, that is, of not allowing itself to be caught up in itself and by things to do, and is aware of others, of their wounds, their needs. Compassion is born from contemplation.

During summer time, let us learn how to take a break, turn off the mobile phone to gaze into the eyes of others, cultivate silence, contemplate nature, regenerate ourselves in dialogue with God.

この夏の間、立ち止まって休むことを覚えましょう。携帯電話の電源を切って、他者の目をしっかりと見ましょう。沈黙の時を持ち、自然を観想し、そして神との対話のうちに生まれ変わらしましょう（マルコ6・30-34参照）

読書会のお誘い

『いのちへのまなざし』
《すべての人が与えられたいのちを
十全に生きることができるように》



わたしたち一人一人に与えられた、このかけがえのないいのち。このいのちが現代の日本、そして世界の各国において、必ずしも大切にされていません。

全被造物をやさしさと
いつくしみをもって見守る神のまなざしが、わたしたちひとりひとりのまなざしとなるようにと願う、

いのちのメッセージを読んでみませんか。

いのちに関わる現代の諸問題について話し合ってみましょう。どなたでも関心のある方はどうぞ。

担当： シスター永田淑子（カトリックセンター長）

E-mail: smnagata@fujijoshi.ac.jp

場所： チャペル棟3階 カトリックセンター

日時： ご都合に合わせて相談の上決めます

ミサへのお誘い

聖マリア聖堂において、後期には下記の通りマルクス学長司式によるミサを行いますので、どなたでもご参加ください。

9月30日(木) 12:30～13:00

10月28日(木) 12:30～13:00

11月26日(金) 12:30～13:00

12月22日(水) 13:00～14:00(花川)クリスマス

12月23日(木) 13:00～14:00(16条)クリスマス

1月18日(火) 12:30～13:00

3月17日(木) 13:00～14:00 卒業感謝

聖歌隊員募集

本学では、聖マリア聖堂完成を機に、聖歌隊を結成しました。学内の宗教行事に美しい聖歌で花を添えていただいています。

現在はコロナのために活動を休止していますが、練習が可能になりましたら、原則週1回1時間程度。ご指導は元藤中高教師の細貝則子先生です。

関心のある方は、学生課鷺足までご連絡ください。



ボランティア学生の募集

カトリックセンターでは、活動を補助していただくために、ボランティア学生を募集しています。

*諸行事の際のお手伝い

*クリスマスの学内飾り付けのお手伝い

などがそのお仕事です。

多忙なボランティアではありませんので、どうぞお気軽にお申し出ください。

希望者は学生課鷺足までお申し出ください。